

マンガ
ふるさと
の偉人

ふくつ ぶしやう
不屈の武将

ちやう つ ら た つ
長連龍

原作

すぎはたけいふん
杉畠啓文
(ラジオかなざわディレクター)

まんが

チハラアケミ

監修

ひがしよつやなぎふみあき
東四柳史明
(金沢学院大学名誉教授)

Never give up!



1546
てんぶん
(天文15)年
8月15日
がつにち

ヤッ ヤッ ヤッ

せんごくじだいのの
戦国時代の能登に
ひとりおしやう
一人の武将が生まれた

サッ

わあ…

ちやうつらたつ
長連龍である

あなみず
穴水の地に
へいわたんてい
平和と安定を
もたらした

美しいです
父上

どうじゃ万松

これが我が
穴水城下町と
穴水湾じゃ

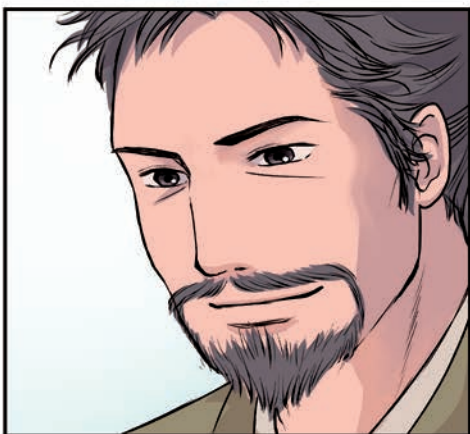
まんまつ
万松
(のちの長 連龍)

あなみずじょう じょうしゅ
穴水城 城主
ちよう つぐつら
長 統連

お前は大きくなったら
この城と領民を兄とともに
しっかり守るのじゃぞ

はい
父上!!

そうだ父上
あの話を
お聞かせください
わが穴水城に
伝わる長家の…



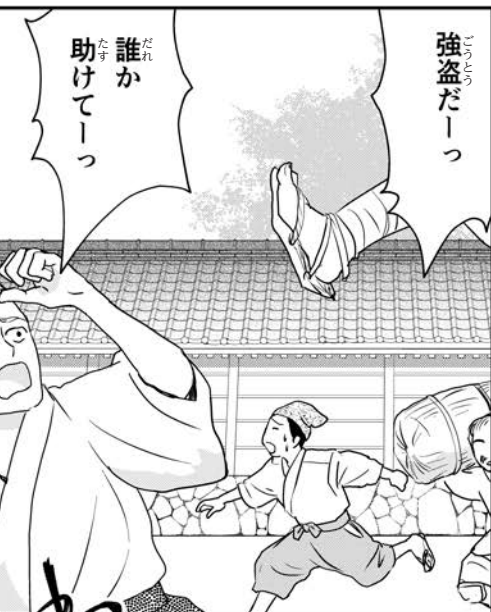
今から
さかのぼること
約350年前

我が先祖の
長谷部信連は

京都で
朝廷に仕える
武士であった
長谷部為連の子
として

誕生したんだ
そうじゃ

だい しょう は せ べ のぶつら
第一章 長谷部 信連



それはそれは
勇敢で正義感が強く
周囲から厚い信頼が
寄せられておつての…

へいあん じ だい まつき きょうと
平安時代末期の京都



貴様ら
なに
何をしておる！

な…
なにもの
何者？！

つ…強え

よう
覚えとけ
賊ども！

は
は
は

わしは
はせべ
長谷部信連
じゃ

はせべどの
長谷部殿……!

たす
助かった〜

ありがとうございます
のぶつらの
信連殿!!

はせべのぶつらのち
長谷部信連は後に
※高倉宮以仁王の
親衛隊長になるが

へいしのとうばつ
平氏の討伐を
源氏に呼びかけた
もちひとおう
以仁王は討たれて
しまう

※後白河天皇の皇子。皇子

しかし
平氏を滅ぼした源頼朝が
鎌倉幕府を開くと



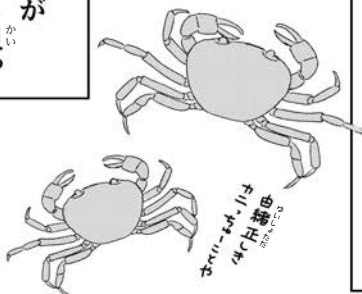
信連は以仁王を助け
平氏と戦った
功績を賞され

源頼朝の
御家人の列に
加えられたんじゃない

その後
能登国大屋荘の地頭職となり
奥方を連れて穴水の地にやってくる

この時、奥方が鎌倉の海岸の
由比ヶ浜から持ってきた
貝とカニを穴水の湾に放流し

ただのニでは
ないぞ



それが繁殖したのが
「御所守」と呼ばれる貝や
「信連カニ」だ

そうしてこの大屋荘内の
穴水城のお殿様にな
ったそうじゃ

※1 大家荘…現在の穴水町から輪島市にかけての地域
※2 地頭職…荘園の管理や治安維持
※3 奥方…妻
※4 長谷部信連は、姓を省略して長信連とも称した



なあげそうけ



穴水城の
あなみずじょう
当主となつた長家には
ちようけ
こんな話も伝わつておる
はなし



とのさま あなみずじょうか み まわ ちゅう
お殿様 穴水城下見回りに



殿
そうで
ございますなあ

ここ穴水城下は
入江の波も静かで
山海の幸も美味
実に良い
ところじや



えっ
あっ

これ
そのばあさん
いまなに
しておる

あの者は
なにをしておるんじや？



へへーっ
菜を洗って
おります

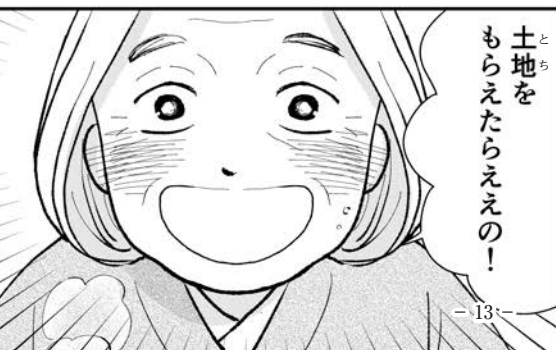
ふむ



かわじま しちろうべえ
・川島の七郎兵衛のおばあさん









殿様は
このひまわり

「菜上げ箒け」を
「名上げ長家」と解したので

これは長家の家運が開ける
よい兆しと考え

この箒を
戦場で大将の本陣が
どこにあるかを知らせる
馬印にしたのだ

ちなみに他の武将は……



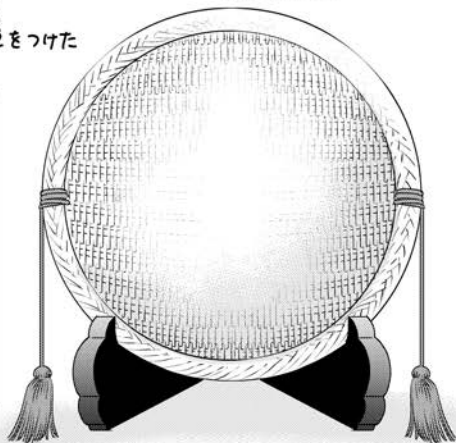
豊臣秀吉は
金黒瓜箒

金箔等を使って色をつけた



これが長家
代々の家宝

金そう印馬幟じや
(穴水町指定文化財)



だい しょう
第二章

まんまつ
万松

その箒^{はき}って
城^{しろ}の宝庫^{ほうこ}に保管^{ほかん}
されてるやつだよね！

そうじゃ

てんぶん ねん
1552(天文21)年

のやく
信連^{のぶつぐ}から
やく
約350年後^{ねんご}の
この時代^{じだい}

領国^{りやうこく}の支配^{しはい}を
めぐって争^{あらそ}いが続^{つづ}く
戦国時代^{せんごくじだい}に突入^{とつぱん}して
いた

穴水城は
海上交通や陸路における
奥能登の最も重要な位置に
あるため

地域支配に適して
いたことから
奥能登地域の城の中でも
飛びぬけてすぐれていた



能登から背後を
突かれないよう

能登

越後

京へ上ろうとする
越後の上杉謙信は

長氏の穴水城や
大名畠山氏の七尾城を
手中に収めようと
していた

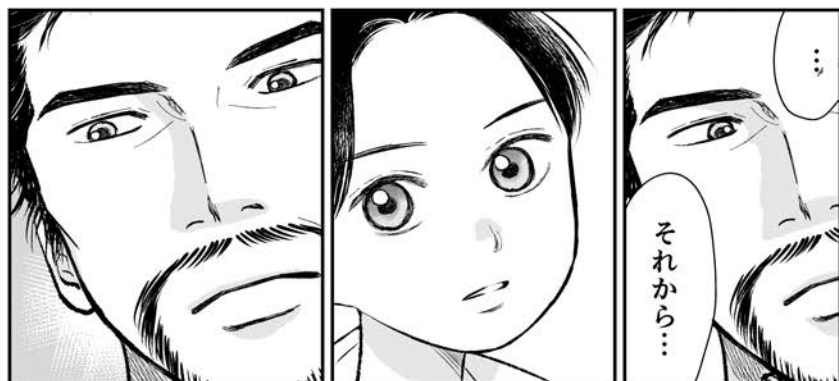
京

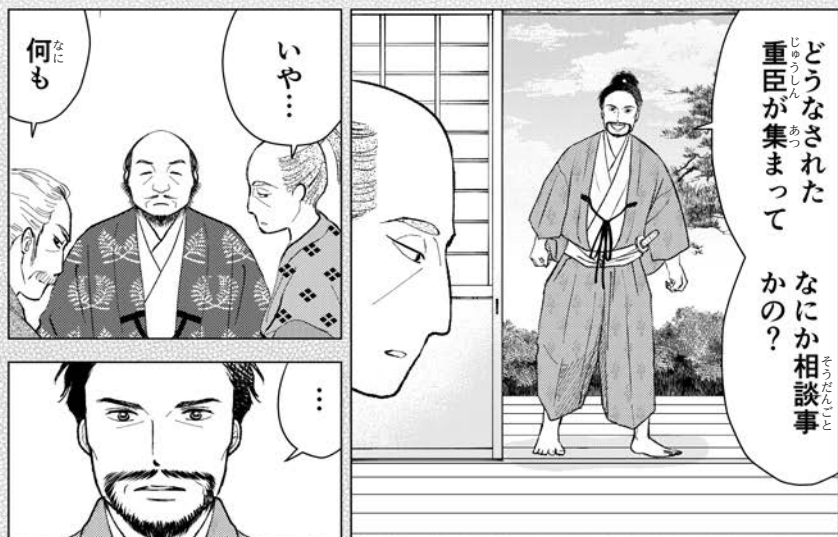
この物語は

長連龍とその一族が
謙信に奪われた穴水城を
取り返すため

死力を尽くして
戦ったお話である





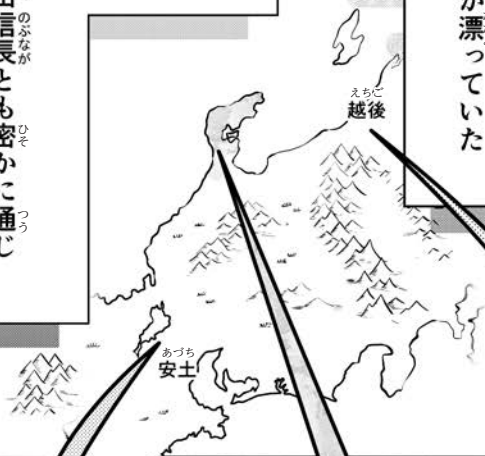


能登は古くから
守護の畠山家が支配を
してきたが

当主が幼少のため
家臣の間で主導権争いが続き
七尾城内に不穏な空気が漂っていた

父・統連は
畠山家の重臣として
実権を握り

織田信長とも密かに通じ
畠山家中で一番
発言力があつた



七尾城 畠山
家臣たち

織田派



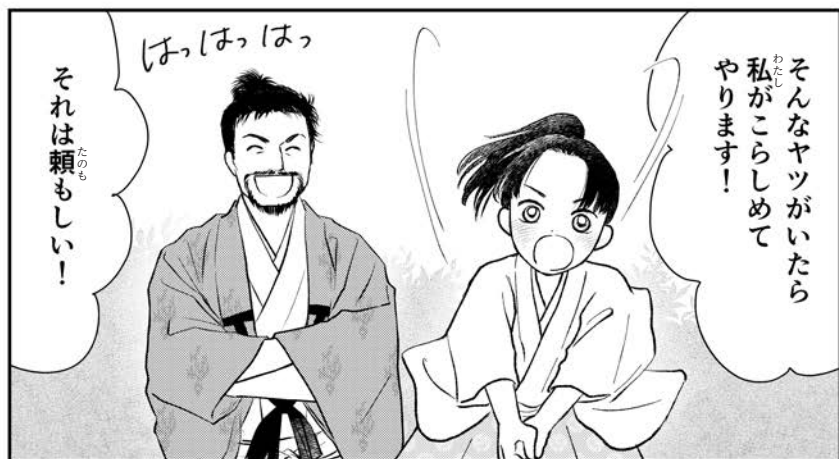
上杉派から織田派へ...



上杉派



能登をとりまく戦乱図



※この時代、寺は高等学問機関でもあった。

どうした
不満か？

い…
いえ
わたし
私には仏様の話は
むずかしくてよく…

それに
書物を読むより…

棒を振り回してる
方が好きです！

そやのう！
わしだって
同じじゃ！

だが
書物が届いても
読めなかったら
困るじやろう

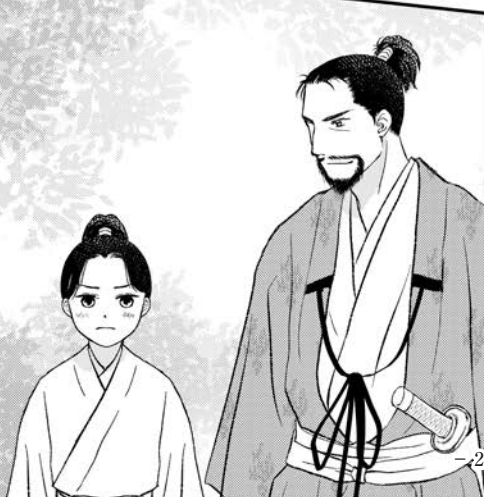
助けを求めたい
時も然り

…大將は





読み書きが
出来なければ
戦場で死ぬ



…は
はい父上…

寺は穴水城に近い
中島の定林寺が
よいであろう

はいッ！

こうして
時は流れ

万松はその後出家して
名を「宗禪」と改め
孝恩寺の住職となる

僧として学問と
修行に励む中



少しずつ
七尾城をめぐる
対立が起き始める
のであった……

越後^{えちご}
春日山城^{かすがいさんじょう}

えちごのくに だいみょう
越後国の大名
うえ すぎ けん しん
上杉謙信

…どれ

そろそろかの

スッ…

…しかし七尾城は
天下の名城^{てんかめいじょう}

そう簡単には落城^{らくけい}
いたしませぬ^{かんたん}

わかっておる

しかしここを
落城させんと
越後から
京へ上る軍が
加賀で背後を突かれる

だが
畠山の当主
は幼く

支配しているのは
長家の父と子…



長男・綱連 父・統運

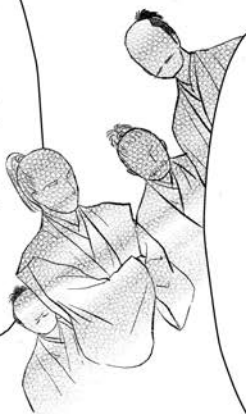
そこを狙う

なにか
秘策でも…

七尾城の長親子は
織田信長と密かに
つながっておる

ところがそれを
おもしろく思わぬ者も
おってな

そこにつけこんで
こちらに引き込むのよ



長父子

織田



なるほど！
七尾城内に
我々の味方を作る
のですね！

それは名案！
さっそく
根回しを…

すでに根回し
済みじゃ

はっや！



乱世を終わらす
ためじゃ…



いやらしい策じゃが
いたしかたない

争いは避けては
通れぬ



これも乱世を
生き抜くため

近江の
安土
おつみ
あつち



お だ のぶなが
織田信長

どれ

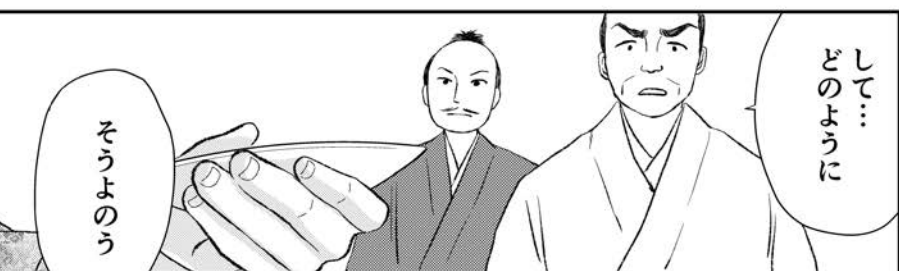
能登というところ最近仲良くしている
長親子ですか

七尾城は跡継ぎが次々と死んでいると…

そろそろ上杉が七尾城を攻める頃じゃろう

ああ
今の当主は幼子じゃ

長親子が必死に守つとるがあれじゃあな…





わしは常に
先を見えておる

つまらぬ事を言う
と
その舌をたたっ斬るぞ！



わしは必ず

天下人になる…！



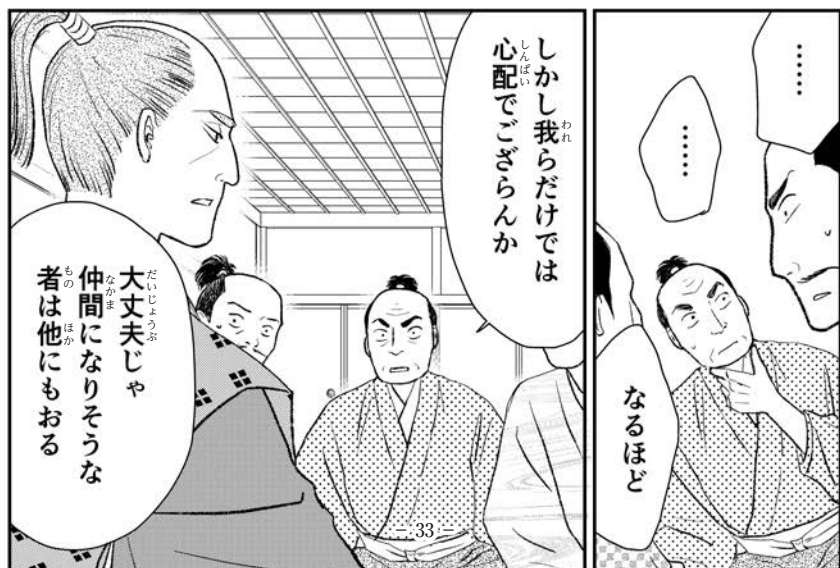
こんな世は
間違つとる…

早く終わらさねば
ならん



そのために
手段は選ばず！





ぬくいかけたか
温井景隆

みやけながもり
三宅長盛

ひらたかとも
平堯知…

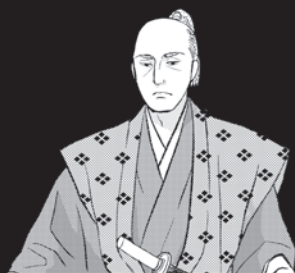
じゅうしん
重臣
ばかり…!

これ

このことは
だれ
誰にも言うなよ

はく
策がもれると
めんどう
面倒じゃ

はは!



さくもち
どんな策を用いても
勝てばよいのだ

し
死んだら
負け

てき
敵か…

みかた
味方か…

どちらに
ついた方が
生き残れるか

みきり
見極めねばのう

だい しょう
第三章

こうおんじ そうせん
孝恩寺 宗顯

そしてついに
1576(天正4)年
11月

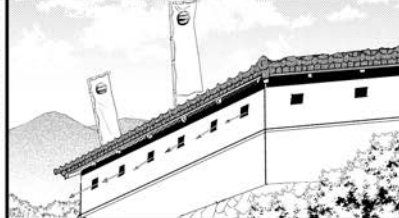
うえすぎ けんしん
上杉謙信
の
と
能登に侵入

ちやうおやこ
長親子は
あなみずじよう
穴水城を奪われ
ななおじよう
七尾城に籠城



謙信は
関東出兵のために
いったん越後に戻った

約5ヵ月間の
攻防の末



ああ…

父上…
危なかったですね

謙信は
さすがに強い

父：長続連

兄：長綱連



しかし…道中は
敵もいます
誰を向かわせ
ましょうか



安土の信長様に
援軍を頼むか…

今回はなんとか
持ちこたえたが
次は落城するかも
しれん



なに

おとうと
わす
弟を忘れたか

おちうえ
父上!

こう おん じ そうせん
孝恩寺 宗顥
ちようつらなつ
(のちの長連龍)



ななおじょう ちよう や しき
七尾城 長屋敷

あづち のぶながさま
安土の信長様に
えんぐん 援軍を要請して
こいと?



おひさ
お久しぶりで
ございます!

よくご無事で…
しんぱい
心配しておりました…

謙信は
信長様とつながる
わしらを狙っておる

だがその点
僧であるお前なら
怪しまれず

武芸の心得もあるゆえ
危険が伴っても
帰ってこられるだろう

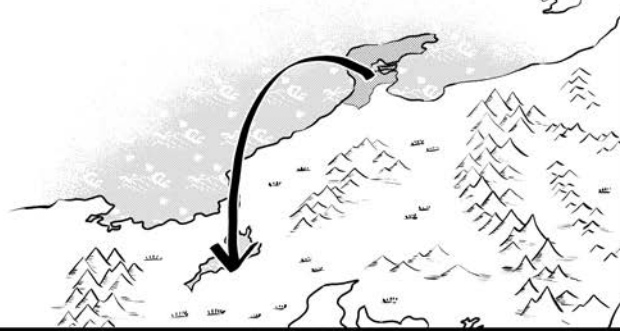
…どうじゃ

頼めるか



我が一族の命運が
かかっております

必ずや安土の
信長様にお伝えし
援軍を連れて参ります



こうおんじ そうせん
孝恩寺 宗顯は
すぐさま安土へと
向かった



おうみのくに
近江国
あづちしやう
安土城

ここ安土に
どでかい城を
建てておる



お だ のおなが
織田信長

…して
お主が
孝恩寺 宗顯
だな

はっ

穴水城が
上杉に奪われ
七尾城も危ういのです

今は越後へ帰りましたが
また出陣してくるに
違いありません

なにとぞ
お助け下さい

ははっ
ありがとうございます!!

必ず援軍を
向かわせよう

うむ
わしも予感
しておったわ

これから
どうするのじゃ

はい

奪^{うば}われた
穴^{あな}水^{みづ}城^{じょう}を

兄^{あに}とともに
取^とり戻^{もど}します!!



こうして
能^の登^とに帰^{かえ}った
宗^{そう}頼^{ぜん}は

穴^{あな}水^{みづ}城^{じょう}奪^{うば}還^{かえ}に向^むけて
動^{うご}き出^だした

甲村の入江にいる
上杉水軍が
穴水にきている…

城内に物資を
運んでいる
のか…

くそっ

—よし

矢を放て

私はスキを突いて
敵船に攻めこむ！

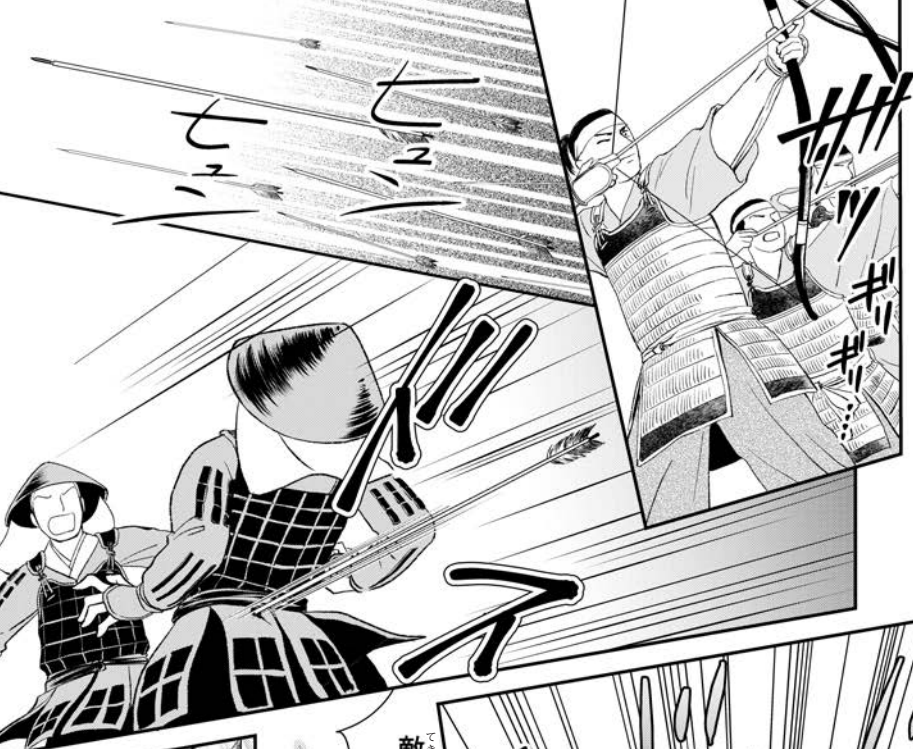
えっ

では宗頼様
甲冑を…

いらん！

この方が敵も
油断するであろう！

行くぞ！！



敵襲!
へてきしゅっ

へてきしゅっ
敵襲じゃーっ







そうせん
宗頼様…

つっ…
強い…

これは
まるで…

ぐん
軍神のようじゃ…!!



宗頼そうらいの攻撃こうげきは
成功せいこうしたが

穴水城あなみずじょう奪還だつかんを
目前もくぜんにして
いったん七尾城ななおじょうに

だが

再びふたたび謙信けんしんが
現あらわれた

七尾城ななおじょう



穴水城あなみずじょうを取り返かえすのに
忙しい中いそがなか…すまん宗頼そうらい！

いえ父上ちちうえ！

信長様のぶながさまにお願い
してあるので
大丈夫だいじょうぶです



なるべく早く
援軍を連れて
参りますので

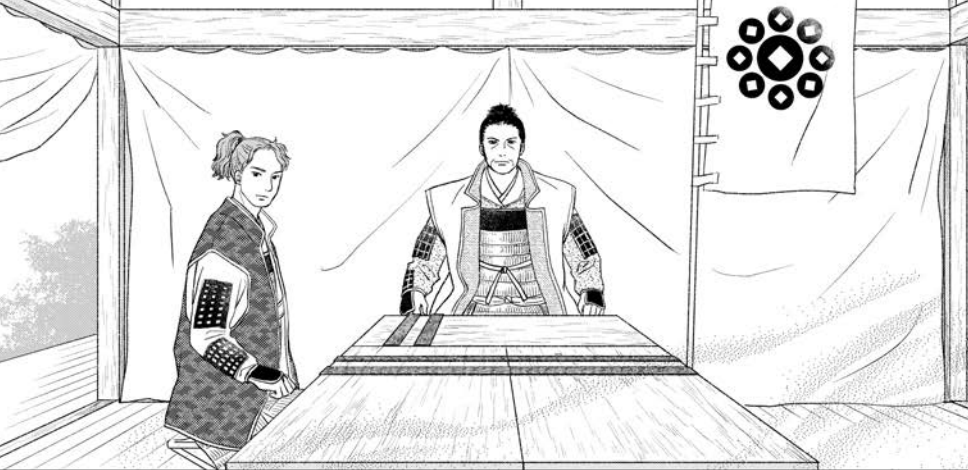
それまでどうか
持ちこたえてくだされ



うむ



宗
頼



うえすぎぜい
上杉勢を
けち
蹴散らしたら



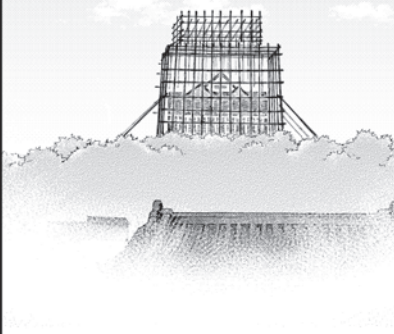


それはよう
ございますな

楽しみにして
おります



再び
安土へ
ふたたび
あづち



落ち着き次第
わしも能登へ行くが

それまで
配下の柴田勝家を総大将に
前田利家と羽柴秀吉らを
出陣させる

しばらく
持ちこたえよ

……ははっ！

信長は能登へ向け
織田北陸軍を
出陣させた

越前 北庄城
柴田勝家

越後 春日山城
上杉謙信

近江 安土城
織田信長

長浜城
羽柴秀吉

どうかご無^ぶ事^じで…!!!

ななおじょう
七尾城

父^{ちち}
上^{うえ}
…





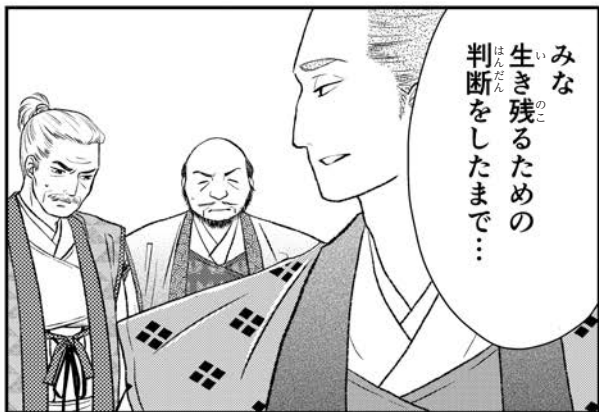
ここらが
潮時しおときじゃ



上杉勢うえすぎせいに

降伏こうふくせぬか







わしは降伏^{こうふく}なぞ
せんだ!



わしは
待つ!!

宗頼^{そうぜん}は必ず援軍^{えんぐん}を
連れてくる…

そうせん
宗顥を
待つ!!!

わかった

...

どうなっても
知らんぞ

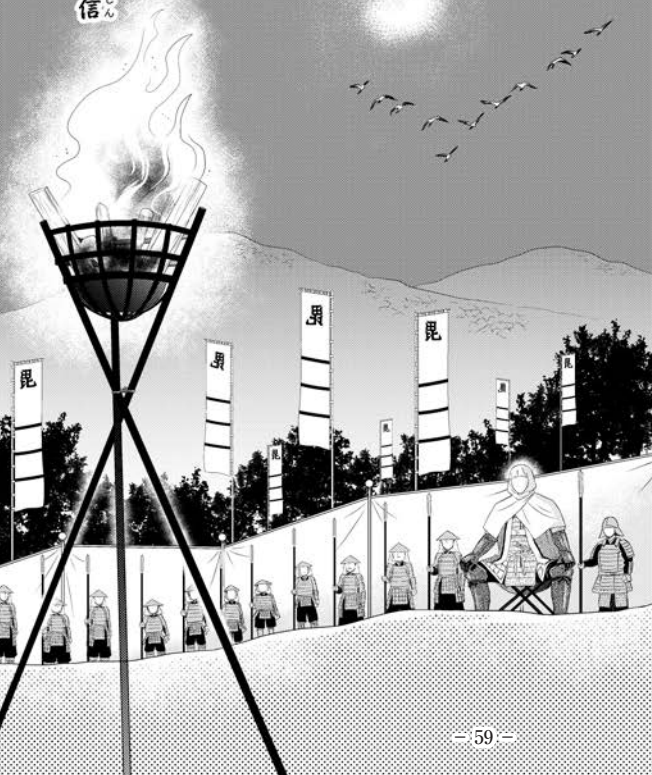
しも ぐんえい
霜は軍営に満ちて
しゆくきよ
秋気清し

すうこう かがん
数行の過雁
つきさんこう
月三更

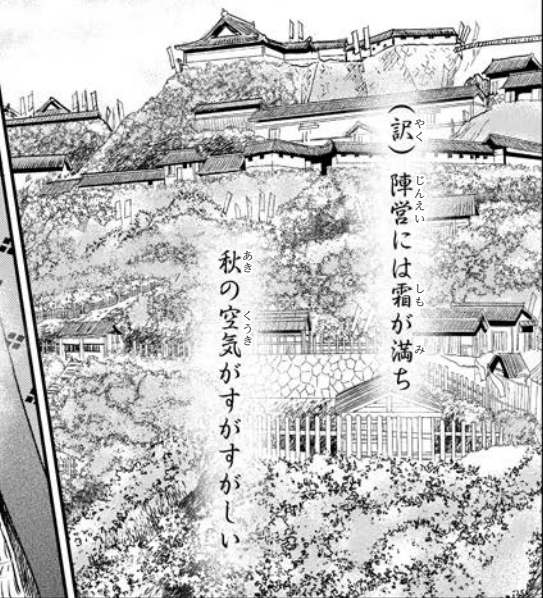
えつさんあわ え
越山併せ得たり
のうけう
能州の景

さもあればあれ かきよう
遮莫家郷
えんせい
遠征を憶う

くがつじさん
九月十三夜
しんちゆう
陣中の作
うえすぎけんしん
上杉謙信



七尾城



（訳）

陣じん営えいには霜しもが満みち

あき
くうき
秋の空気がすがすがしい

空を仰ぎ見れば

つきかがやてんくう
月の輝く天空へ
がんと
雁が飛んでいく



鬼

今や能登も
しゅちゅう
おさ
手の中に収めようと
している

越後えちご 越中えっちゅう
加えくわえ



かぞく わたし
家族が私を
心配している
かもしれないが

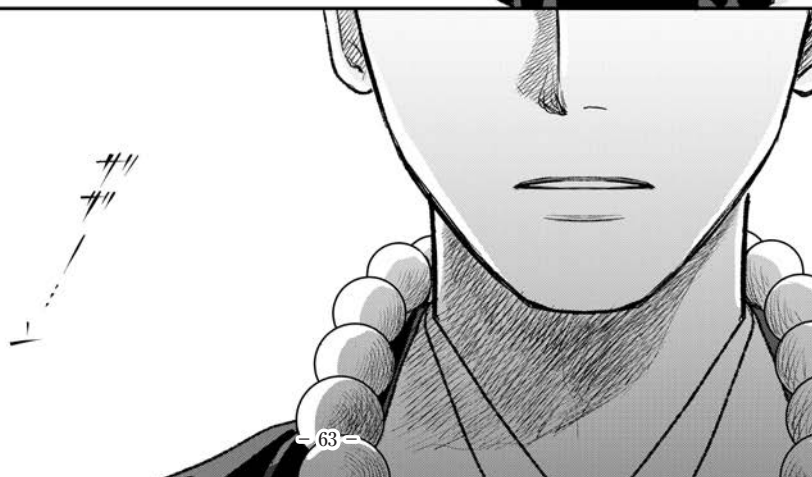


いま
今しみじみと
のち
能登の地から

こきよう
故郷の越後を想うこと
えちご
しきりである

うえすぎ けんしん
上杉謙信





母上まで…
ははうえ



父上…
あちうえ



兄上…
あにうえ



……



遅^{おそ}かった

くも
首は加賀国石川郡倉部浜に
さらされ

あまうぢいさん
長一族は
100人以上皆殺し

そうせん
宗頼はたった一人の
生き残りとなった
……

※加賀国石川郡倉部浜…現・石川県白山市倉部町

※ いしかわぐんみずしま
手取川を越えた石川郡水島
北陸織田勢の陣

※ 現・石川県白山市



おう 宗頼か
そうせん

はまなら
浜に並んでおった首は
めし いちぞく
お主の一族でなくて
よかったの

…秀吉様
ひでよしさま

そのことについて
お詫びしたいことが…

うん？
なんじや



はしば ひでよし
羽柴秀吉
(後の豊臣秀吉)

…実は
じつ

我が一族の首では
ないとお伝え
しましたが

うそ…を
申ししてしまいました…



気持ち
わかるが…

……うむ



お願いがございます！

このまま能登に進んで
一族の仇を撃たせて
いただけませぬか！



七尾城が落城
しているとなると
話は別なんじゃ

能登

上杉軍
の領土

加賀

織田軍

進軍はないと
思うてくれ



わかりました…



けんりん
謙信…

ゆうさ
遊佐…

ゆる
許さぬ!!!



その後
羽柴秀吉は
すぐに撤兵したが



柴田勝家は
侵攻する上杉軍に
手取川で追撃された

夜の間に
身を隠しながらの
撤退であったが

大雨と
増水もあり

織田軍は上杉軍により大勢の兵が
討ち取られたという……

その半年後
越前(福井県)

宗頼殿
大変じゃ!



どうした
騒々しい



上杉謙信が

春日山城で
急死じゃ!





なに！
ほんとう
それは本当か！？

はい
じょうない
かわや
たお
城内の厠で倒れた
そうで…



わしが

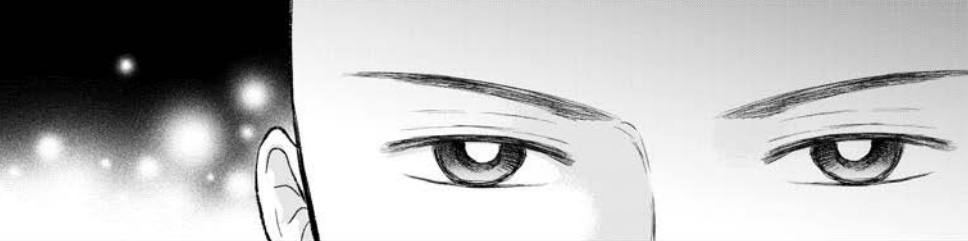
この手で
討ちたかった…



けんしん
謙信が……



この手で…



時は来た



—ということとは

いま
今が好機

はいっ！

反撃を
開始する

越前にて
再起を狙っていた
孝恩寺宗顯は

だい しょう
第四章

ちょう くらう ざ えもんじょうよしつら
長九郎左衛門尉好連

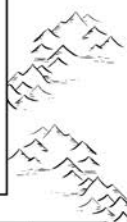


はげしい 攻防戦の末
上杉勢から
穴水城を奪還したの
だった



宗頼は
越前の三国湊で
兵士を募り

船で能登の
富来に上陸後
穴水に攻め入った



信長様の支援が
なければ
無理じゃった…

わしらを
忘れとらんか



いやあ
ここに來るのにも
船が難航し
大変でしたからね

あー！
ようやく
帰ってこられたな！

穴水城



宗頼様か
戻られたと知り

ほか
なか
他の中居の者と共に
加勢しに参りました

わしらも
おるぞ

なんと!

お主……!
中居の鑄物師
真清田三右衛門
ではないか!



川島の
池田栄斎や

平野村の
兵衛たち……

地元穴水の地侍や
百姓たちまで!

← 地元のお侍さん



そなたの父上には
お世話になったからな

上杉の支配は
どうもイヤじゃ

どうして……

父上……！
ちち うえ



泣くのは
まだ早い大將
な はや たいしょう

わしらも銭だけで
動いとらん
うご ぜに



ここにおるやつら
みんな

親兄弟を戦で
亡くしておる
おやきょうだい いぐな



みな

お主に自分を
重ねておるのよ
かみ ぬし じぶん



みんな…



わしらは地元穴水の
事情に詳しいから
安心してください！

ならば
鑄物師の我々は
鉄砲を作りましょう！

不思議じゃの…

どんどん人が
集まってくる…



い
あなみずじょう
言っとくが穴水城を
取り戻したとはいえ
これからが大変だぞ



けんしん
謙信は死んだものの
能登の上杉勢や遊佐たちが
黙っちゃいない

また攻めてくるぞ

…わかっておる



この頃宗頼は
戦の本格化から
還俗し

越前の
柴田勝家殿を通して
信長様に援軍を
お願いしてみる

「長九郎左衛門尉好連」
と名乗るようになる

なげまな
オオ



※還俗…お坊さんをやめること

穴水城
うづしづらめう
龍城中

— なにっ！ —

この文は
ほんとう
本当か!?

はっ

柴田勝家様から預かり
着物の襟首に隠し
命がけで持ってきた
密書でございます!

冬の日本海は
波が高くて
船は出せないから

援軍は来年の
春まで待て……!?

……

まだ秋
なのに!?



そんなこと
とてもみなに言えぬ…



無理じゃ

好連は織田方の援軍が
期待できなくなつたため

籠城していた
穴水城から密かに撤退

同じ織田方の
越中の守山城の
神保氏張のもとへ
身を寄せた

穴水城
あなみずじょう



守山城
もりやまじょう

いったん
退避じゃ!!

※越中の守山城：現在・富山県高岡市二上山の山頂

その頃
七尾城では

どうやら越後が
かなりはしり
後継を争い加
え進めてるらしいぞ

えっ

まじで

ヤバいぞ

七尾城担当
上杉家臣

上杉家臣の一部が
織田方に転身

上杉勢と織田勢の
大混乱の中

遊佐統光は
信長に許されず
好連によって
討ち取られ

温井・三宅らは
七尾城を明け渡し
降伏しようとする

信長は領地を
好連に与える代わりに
温井らと仲直りをするように
言うのだった



おい三宅殿
まずいぞ！

遊佐殿が
やられた！

次は
わしらかも…

畠山旧家臣
三宅長盛

畠山旧家臣
温井景隆

うむ…



我々が助かるには
ただひとつ…

信長に降伏し
七尾城を明け渡す…



七尾城を
差し出すから
許してくれだ…？

温井と三宅が

越中 守山城

なに…？







…信長様

のぶながさま

伝えてくれ…

だったら
なんのために
一族は死んだのだ!!!

すぐ寝返るヤツは
信用ならぬと!!

戦じゃ！
いくさや！

戦の
準備をせい!!

一族の仇!!!
いちぞくのかたき

再び能登を
取り戻しに行くぞ!!!
またのどをとりにくぞ!!!

許さん...
ゆるさん...

討^うて

!!!







撤退…!!
てつたい

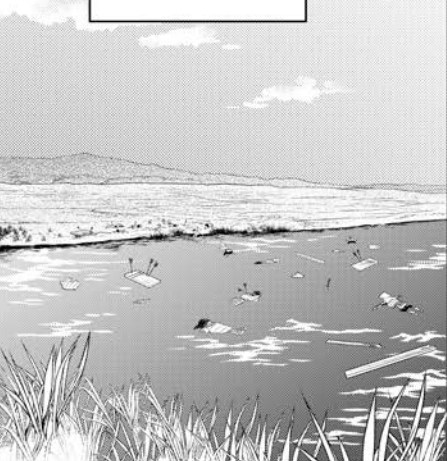
撤退じゃ——!!
てつたい



1580(天正8)年
5月〜6月

羽咋^{はくいか}の邑知^{おうち}潟^{がた}のほとりで
繰^くり返^{かえ}された菱^{ひし}脇^{わき}の戦^{たたか}いは

温井^{ぬくい}・三宅^{みやけ}方を相^あ手^てに
好^よ連^{しつら}の圧^{あつ}勝^{しょう}で
幕^{まく}を閉^とじた



だい しょう ちょう つらたつ
第五章 長 連龍

「好連」から
「連龍」と改名
する

そして好連は
能登奪還を目指して
心機一転







命を
落とすなよ

我らでゆつくり
宴を催そうぞ







父上
ちちうえ

兄上
あにうえ



見えておりますか

…おい

見よ



みなお主の
噂をしておるぞ



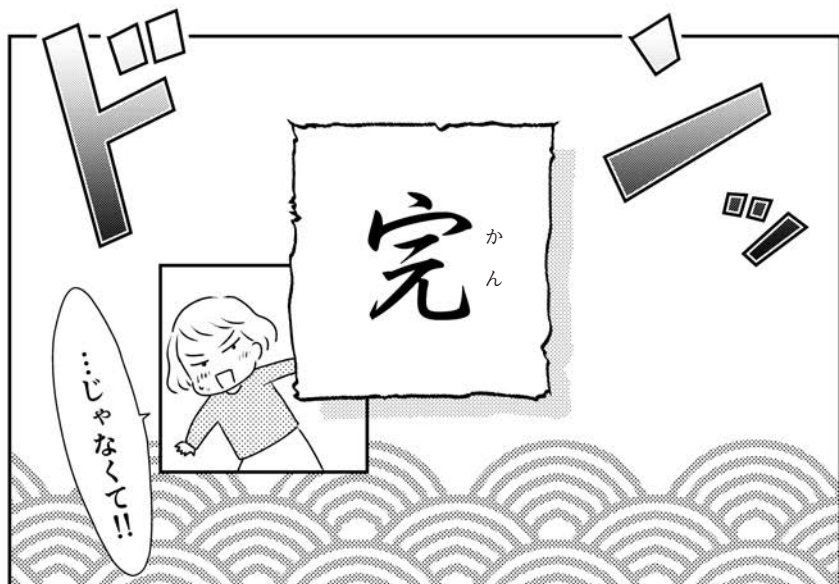


…こうして

長連龍は
上杉方から能登を
取り戻し

故郷を守り抜いた
男として

未来永劫
語り継がれていくことになる――



このお話を描くにあたり
あらためて戦国時代を猛勉強

※ ネームをしている時は
タイムスリップした
気分にもなりました



なんかもうこの能登に
名だたる戦国武将と
渡り合った人がいたんだ!

というだけで
感動です!!!

※ネームとは、コマ割りや演出を決める作業

そんな長連龍の人生に
命を吹き込んで
下さった方が
このお二人!

企画・原作
ラジオかなざわディレクター
杉畠啓文さん

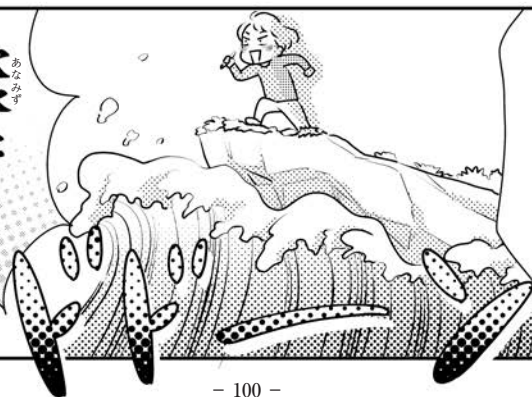
金沢学院大学名誉教授
歴史学者
東四柳史明先生



このプロフェッショナルな
お二人なくして
物語に重厚感やリズムは
生まれませんでした:(涙)

そして
長連龍を通して
知ることになる……

穴水と
戦国時代のおもしろさ!!



ひやくぶん いっけん
百聞は一見にしかず！行ってよかった！
山城って…プチ登山でした。ここに住んでいたなんてすごい

現地取材も
行ってきたよー！



↑
草木を分け入ってく
穴水城跡。
冒険心がくすぐられた！



七尾城の跡だよ！

←杉畠さんのカゲ

お城といえばこんなイメージだけど →
これはもう少し後ね。



他にも
能登中居
海沿いの集落
能登中居博物館や



たつるはま
田鶴浜にある
長連龍のお墓など
あちこちめぐって…



穴水町歴史民俗資料館
(長家史料館)では職員の
岡本さんのめっちゃ詳しい
解説に脱帽し



織田信長や
宇田勝家とい
ふ空いばい!!



まん
あへ
満・足

いっしょに
梅まつりまで...

余談だけど
その後の打ち合わせで
不思議な縁が発覚

あれ
あなたが
あなただけ
山中温泉の人なの？

やまなかおんせん
山中温泉の源泉を
再発見したのって
長谷部信連なんだよ

信連

ひがしよつやなぎ ふみあさ ちんぷん
東四柳史明先生

え...
ええええーつつ

そういえば
しらさが傷を
癒している場所を
発見した人がいたけど！
その人が
そうなの!!

そういえば山中に
長谷部神社って
ありますね...

私も穴水の
長谷部神社の神主だから
山中とは結びつきがあるのよ

いしかわけん
きた みなみ
石川県の北と南の
はじっこ同士

てん てん
ひす
点と点が結びつく

れきし
これが歴史の
奥深さ

あひらぎ
穴水町

やまなかおんせん
山中温泉

車で片道
約2時間30分
(高速道路あり)

さあ

ちようつらつ
長連龍の物語は
これで終わりじや
ないんです

本編では
穴水で活躍したお話が
中心でしたが

ゆきやう
連龍

彼は
時代の大きな
渦の中にいました

のど
能登に実在した
ほんとう
本当のお話

かれ
彼の晩年を
ダイジェストでご紹介!!

げきどう
激動の
せんごくじだい
戦国時代末期

てんしょう ねん ちょうつらたつ
1581(天正9)年 長連龍

前田利家が
織田信長から
能登一国の国持大名に
任ぜられると

利家
よう頑張った！

褒美を
つかわす！

...というわけで
協力してね

ははっ！

利家
連龍

長連龍は
その協力者として
利家を支えた

ほんのう へん ちょうつらたつ
本能寺の変 長連龍

殿！

殿
大変じゃ！

明智光秀の
謀反により

織田信長様が
京都の本能寺で
討ち死に！

なんじゃ
騒々しい

あらやまかつせん ちようつらたつ
荒山合戦 長連龍

1582(天正10)年7月



しず が たけ たたか ちょうつらたつ
賤ヶ岳の戦い 長連龍



前田利家
 撤退

羽柴秀吉と
 柴田勝家が
 相对した戦で



危険な役目を
 務めた

連龍は軍の最後尾で
 敵の攻撃を防ぎながら
 味方を逃がすという
 (しんがり)

これにより
 羽柴秀吉が
 勝利

まえ だ としいえ ちょうつらたつ
前田利家没 長連龍



息子利長に
 残された遺書には
 こう書かれてある

利家
 享年63歳

長連龍は
 いい男じゃ
 大切に
 するんじやぞ

せきが はら たたか ちようつらたつ
関ヶ原の戦い 長連龍

この時も最後尾を
務める

この一カ月前

小松城主の丹羽長重に
浅井礫で攻撃されたが突破

徳川家康と
石田三成の
天下分け目の大戦で

加賀藩二代藩主
前田利長は
家康につく

利長様をお守り
するのじゃー!

※小松城外の田園地帯

おおさか じん ちようつらたつ
大坂の陣 長連龍

関ヶ原の戦いで勝利した
徳川氏(江戸幕府)と
豊臣氏による最後の戦

大坂冬の陣
大坂夏の陣も
三代・前田利常軍の
先陣として参戦

豊臣氏滅亡



ダイジエストで
お送りした
長連龍の活躍

いかが
でしたかな

連龍の晩年は隠居して
如庵と号していたそうで

そろそろ人生の
終わりを迎えようと
しております…

戦国屈指の歴戦の
武将であった連龍も



げんな

ねん

がつ

か

ちょうつらたつ

きょうねん

さい

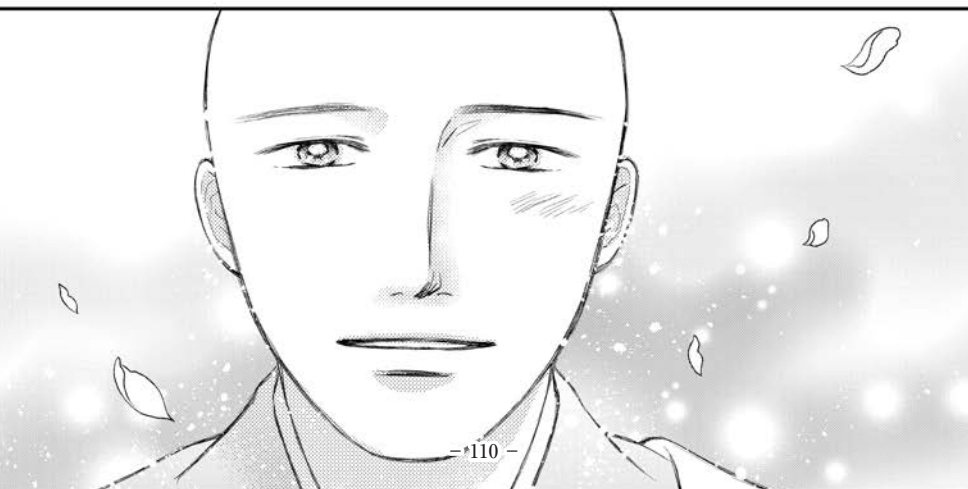
1619(元和5)年2月3日 長連龍 享年74歳

かしまぐん たつるはま きよかん
鹿島郡田鶴浜の居館で



おぼ
覚えておるぞ
連龍

ゆつくり
楽しむうぞ



さあ
うたげ
宴の始まりじゃ！



長連龍の生涯

監修者・金沢学院大学名誉教授 東四柳 史明

戦国時代の能登に、勇猛果敢にして律儀な人柄をもつて知られ、艱難辛苦を乗り越え、見事御家再興を果たした穴水町所縁の武将がいた。長九郎左衛門尉連龍である。

連龍は、能登の守護で七尾城を本拠とした戦国大名畠山氏の重臣であった。穴水城主長統連の三男として生まれた。幼くして鹿島郡熊木の定林寺に入って宗顥と称し、のち同郡池崎の孝恩寺の住職となった。

1577(天正5)年、越後の上杉謙信が能登に攻め入り、七尾城を攻撃すると、連龍は近江安土城の織田信長の許に、使者として七尾城の救援依頼に赴き、柴田勝家・羽柴秀吉ら織田方の援軍を先導して加賀まで進んだ。しかしそこで七尾落城と長一族が皆殺しにあったのを知り、織田勢は進軍を止め、越前に撤退する。

翌6年、独り生き残った連龍は、織田信長や柴田勝家の支援を得て、越前三国湊から単身能登に潜入した。やがて密かに穴水周辺の長家所縁の地侍・百姓や中居の鋳物師らの援助を受け、上杉方に占領されていた、生まれ故郷の穴水城を奪い返した。この頃連龍は、僧侶から俗人に戻って長好連と名乗っている。

しかしその後、上杉軍の穴水城攻撃に耐え切れず、同城を捨てていったん越中守山城の神保氏張を頼って逃れた。やがて連龍は、越中から能登に進撃して、名前を好連から連龍に改めており、能登の各

地を支配下に収め、家臣の大原吉松を穴水大町の代官に置いてゐる。次いで上杉方から織田方に寝返つた畠山田臣の温井景隆・三宅長盛方と対戦して勝利する。

1580(天正8)年9月、信長は、連龍に仇敵温井・三宅方との和睦を勧め、その代償に石動山から流れ出る二宮川以西の鹿島郡の半分の地、鹿島半群(現中能登町と七尾市・羽咋市の一部)を領地として与えた。

そのため連龍は、鳳至郡大屋荘の地頭であつた、長家の始祖長谷部信連以来の父祖伝来の地である鳳至郡の穴水を離れ、鹿島郡の田鶴浜に本拠を移すことになる。ここに連龍は、北陸の名族の御家を再興し、長家21代目の当主となつた。

1581(天正9)年、信長が前田利家に能登一國の支配を委ねると、連龍は織田信長の家臣としての立場から、利家と同盟誓約の血判状を交わし、能登支配を助ける利家の与力となつた。

この関係は、前田家二代の利長の時代まで続き、その間、前田軍の部将として、能登の棚木城合戦・石動山合戦や近江賤ヶ岳合戦・能登末森城合戦・関東小田原城攻略など幾多の合戦に参加した。

また豊臣秀吉の朝鮮出兵に際しては、利家に従い九州肥前名護屋に在陣し、関ヶ原合戦時では、利長の軍の加賀大聖寺城攻略の帰路、能美郡浅井堰で戦い、大坂冬の陣・夏の陣にも、前田三代の利常軍の先陣を務めるなど、生涯41回の合戦に参加したとされ、先陣と後殿を得意とし、利家利長の信頼が厚かつた。

1606(慶長11)年、連龍は嫡男好連に家督を譲つて隠居し、如庵と号した。しかし5年後に好連が30歳で早世し、幼い次男連頼が家督を嗣いだたため、その後見として再び家政を執り、1619(元和5)年、領地鹿島半郡の田鶴浜で74歳の生涯を閉じた。

長連龍 年譜

西暦	年号	事
一五四六年	天文一五年	連龍、穴水城主・長・統連の三男として誕生。
一五六九年	永禄一二年	兄・長綱連に従い、畠山重臣・八代俊盛・誅殺に戦功を上げる。
一五七六年	天正四年	上杉謙信が能登に侵入。次いで翌年三月、越後に帰る。
一五七七年	天正五年	謙信、再び能登に侵入。
〃	〃	連龍、織田信長に援軍を請うため七尾を出発。
〃	〃	七尾落城。統連・綱連ら長一族が、畠山重臣の遊佐統光の反逆により謀殺される。
〃	〃	柴田勝家・羽柴秀吉らの織田軍が、七尾城救援のため加賀へ向かうが七尾落城により、越前に撤退。
一五七八年	天正六年	上杉謙信、春日山城で死去。
〃	〃	上旬、連龍、越前より兵を率い海路から富来に上陸し、穴水城を一時奪回。
一五七九年	天正七年	鳳至郡・甲山城の越後上杉勢、同郡中居を襲う。
一五八〇年	天正八年	冬、連龍、越中から羽咋郡・敷波に侵入する。
〃	〃	連龍、八代肥後を羽咋郡・菱脇に破る。
一五八一年	天正九年	連龍、信長より鹿島半郡を賜わる。
〃	〃	連龍、遊佐統光父子を櫛比村で捕え七尾に連行して斬る。温井・景隆・三宅長盛、連龍を恐れ越後へ逃げる。

一五八二年	天正一〇年	連龍、能登の国持大名となつた前田利家の与力となる。 越中に出陣中の連龍、能登に立ち戻り、鳳至郡棚木城に立てこもる越後上杉景勝の家臣、長一景連を滅ぼす。
〃	〃	織田信長、本能寺の変で自害。
〃	〃	温井・三宅らが越後から能登に侵入し、石動山衆徒と結んで反乱。利家こ
一五八三年	天正一一年	れを攻め、連龍が先陣としてこれを討滅する。
一五八四年	天正一二年	賤ヶ岳の合戦に際し、連龍、利家に従い近江へ出陣。
〃	〃	秀吉が織田信雄と合戦の時、連龍、秀吉に従い美濃へ出陣。
一五八五年	天正一三年	佐々成政が末森城を襲う時、利家の要請により、連龍、能登から出陣。
一五八七年	天正一五年	秀吉、越中の佐々成政征伐の時、連龍出陣し、功により羽織、黄金を賜わる。
一五九〇年	天正一八年	秀吉、九州島津義久征伐の時、連龍、利家に従い京都に在陣。
一五九二年	文禄元年	秀吉、小田原城合戦の時、連龍、利家に従い関東に出陣。
一五九六年	慶長元年	秀吉、朝鮮出兵の時、連龍、利家に従い肥前名護屋城に在陣。
一六〇〇年	慶長五年	伏見城が地震により崩れたため、利家の命により連龍、再造の奉行となる。
一六〇六年	慶長一一年	関ヶ原合戦の時、連龍、好連父子、前田利長とともに大聖寺城を攻め落と
一六一一年	慶長一六年	し、帰路、能美郡浅井堰で丹羽長重軍と戦う。
一六一五年	元和元年	連龍の嫡男好連が家督相続。
一六一九年	元和五年	好連死去につき、八歳の次男連頼が家督相続。(好連の異母弟) 前田利常、大坂出陣の時、連龍二陣として参加。次いで翌年五月にも先陣として戦い、首級三十三をあげる。 連龍、田鶴浜にて死去。没年七十四。 一生の内、攻城・野戦四十一回を戦う。(墓地は菩提寺の田鶴浜東嶺寺)

〈参考文献〉

町制施行五十周年記念 図説 穴水町の歴史（穴水町役場）

図録 長家資料（穴水町教育委員会）

長連龍と織田信長 ―御家再興への道―（石川県自治と教育研究会）

能登・穴水ものがたり「なあげそうけ」（村上真寿美）

本書は、公益財団法人 B & G 財団の「海洋センター所在自治体による偉人マンガの製作と活用事業」の助成を受けて製作・発行いたしました。

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION 

マンガふるさと^{いじん}の偉人 ^{ふくつ}不屈の武将 ^{ぶしょう}長連龍^{ちようつらたつ}

2024(令和6)年2月28日 第1版第1刷

発行 石川県穴水町

〒927-8601

石川県鳳珠郡穴水町字川島ラの174番地

TEL 0768-52-3710（穴水町教育委員会事務局）

監修 ^{ひがしよつやなぎ ふみあき}東四柳 史明（金沢学院大学名誉教授）

原作 ^{すぎはた けいぶん}杉畠 啓文（ラジオかなざわディレクター）

マンガ チハラ アケミ

編集 株式会社ラジオかなざわ

印刷・製本 株式会社ショセキ

制作 一般財団法人 北國総合研究所

本書画像、記事の無断転載と複製（コピー・スキャン・デジタル化）、配信などはかたくお断りします。



せんごくしだい かくち かつせん く ひろ
戦国時代、各地で合戦が繰り広

げられ、勝者は領地を拡大して

いった。越後から京へ上ろうとす

る上杉謙信は、能登から背後を突

かれないよう穴水城や七尾城を手

中に収めようとする。長連龍と

その一族は、故郷の穴水や能登を

守ろうと死力を尽くして戦うの

だった。